

KAMの好事例集の3年間の傾向分析

熊谷 五郎 CMA
土谷 敬 CMA

目 次

- 1. はじめに
- 2. KAMの好事例集の公表の経緯
- 3. KAMの好事例集の概要について
- 4. KAMの好事例集の3年間の傾向分析
- 5. おわりに

KAMは、財務諸表利用者からの強い要望を背景に導入された。こうした中、日本証券アナリスト協会が3年間にわたって公表したKAMの好事例集は、利用者に対しKAMの読み方や使い方を提示し、利用者から監査人や監査役等に対するメッセージとしての役割を果たした。KAMは監査リスクの高い領域を示すものであり、3年間の傾向分析を通じて、そうした領域が選定されてきたことを確認した。一方で、KAMの性質上、KAMに選定された事項が年度で大きく変化するものではないことも改めて確認した。

1. はじめに

日本証券アナリスト協会（以下、当協会）では、2021年度、2022年度および2023年度の3年間にわたり、日本公認会計士協会の協力を得て、「証

券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項（KAM）の好事例集」を公表した（以下、各年度に公表したものをそれぞれ「好事例集2021」「好事例集2022」「好事例集2023」という。また、総称して「KAMの好事例集」という）（注1）。



熊谷 五郎（くまがい ごろう）

日本証券アナリスト協会 企業会計部長（非常勤）。慶應義塾大学経済学部、New York University Stern School of Business卒業。国内外の会計基準、財務報告・サステナビリティ報告、監査制度などに幅広く関与。IFRSでは、IFRS諮問会議（IFRS-AC）副議長、資本市場諮問会議（CMAC）委員、IFRS解釈指針委員会（IFRS-IC）委員を歴任。国内では、企業会計審議会監査部会臨時委員、金融審議会ディスクロージャーワーキング・グループメンバーなどを歴任したほか、財務会計基準機構の企業会計基準委員会委員（非常勤）、同ASAF対応専門委員会委員を務める。東京大学金融教育研究センター（CARF）招聘研究員を兼務。



土谷 敬（つちや けい）

日本証券アナリスト協会 企業会計第2部長。慶應義塾大学経済学部卒業。国内金融機関を経て、2020年日本証券アナリスト協会入職。財務会計基準機構の企業会計基準諮問会議委員、サステナビリティ基準諮問会議委員、企業会計基準委員会の収益認識専門委員会委員を務める。